

MixPre-6M は MixPre-6 の代わりになる？

想定する使用環境が違うため、MixPre-6M をフィールド・レコーダーとして使うには不便と感じるでしょう。また、MixPre-6 に Music プラグインを後から追加することはできますが、その逆 (MixPre-6M を MixPre-6 に改修する) はできません。

1. ハード的省略

MixPre-6M には以下のハードウェア機能が省略されています。内蔵 Timecode ジェネレータ、TC 用 BNC コネクタ、Wordclock 外部同期、DSLR 用 HDMI ポート (カメラのクロックに同期したり、REC トリガーに同期できません。)

2. 最高サンプルレート

MixPre-6M は最高 96kHz までですが、MixPre-6 は最高 192kHz です。

3. 録音ファイル

MixPre-6M はオーバーダビングを前提にしています。違う素材を連続して録音するためには、その都度 Project を作り直さなくてははいけません。(録音フォルダも Project ごとに管理され、トラックごとに mono ファイルが作成されます。オーバーダビングしたあとでも、過去の (下層の) wav ファイルは SD カードに残っており PC で再利用はできますが、MixPre-6M で再生できません。)

MixPre-6 は、録音ボタンを押すたびに Poly 形式でマルチトラックを 1 ファイルずつ保存します。4GB に達しても自動的に新しいファイル名の wav ファイルに録音を継続するので、後で DAW の編集で連続したオーディオファイルとして結合することができます。録音フォルダは Custom か Date をフォルダ名に指定でき、Mixpre-001 といったファイル名で記録されます。(6,7 シリーズのように 3 階層フォルダは作れず、Scene ネームもありません。)

4. L&R ステレオミックス

MixPre-6M の L&R ミックスはモニター専用で、録音後にレンダリング作業することで L&R ステレオ素材をつくることができます。(1 時間の録音データがあればレンダリングに 1 時間かかります。)

MixPre-6 は L&R ミックストラックを ISO トラックと同時に録音することができ、録音終了直後に LR ステレオ素材をディレクターに手渡すことができます。

5. Gain 調整

MixPre-6M はフロントパネルにあるフィジカルノブが Fader 専用に機能する為、Mic Trim を調整するためにはその都度 Input 画面にアクセスしなければなりません。

MixPre-6 では Gain モードを Basic に設定すると フロントパネルノブが Mic Trim と Fader を兼ねた 1 コントロールになります。単純にマルチトラックレコーダーとして利用するときは、Basic モードのノブでマイクゲインを調整できて便利です。